



強制精液催眠2

-受精したら嫁確定！-


その後

前回のあらすじ

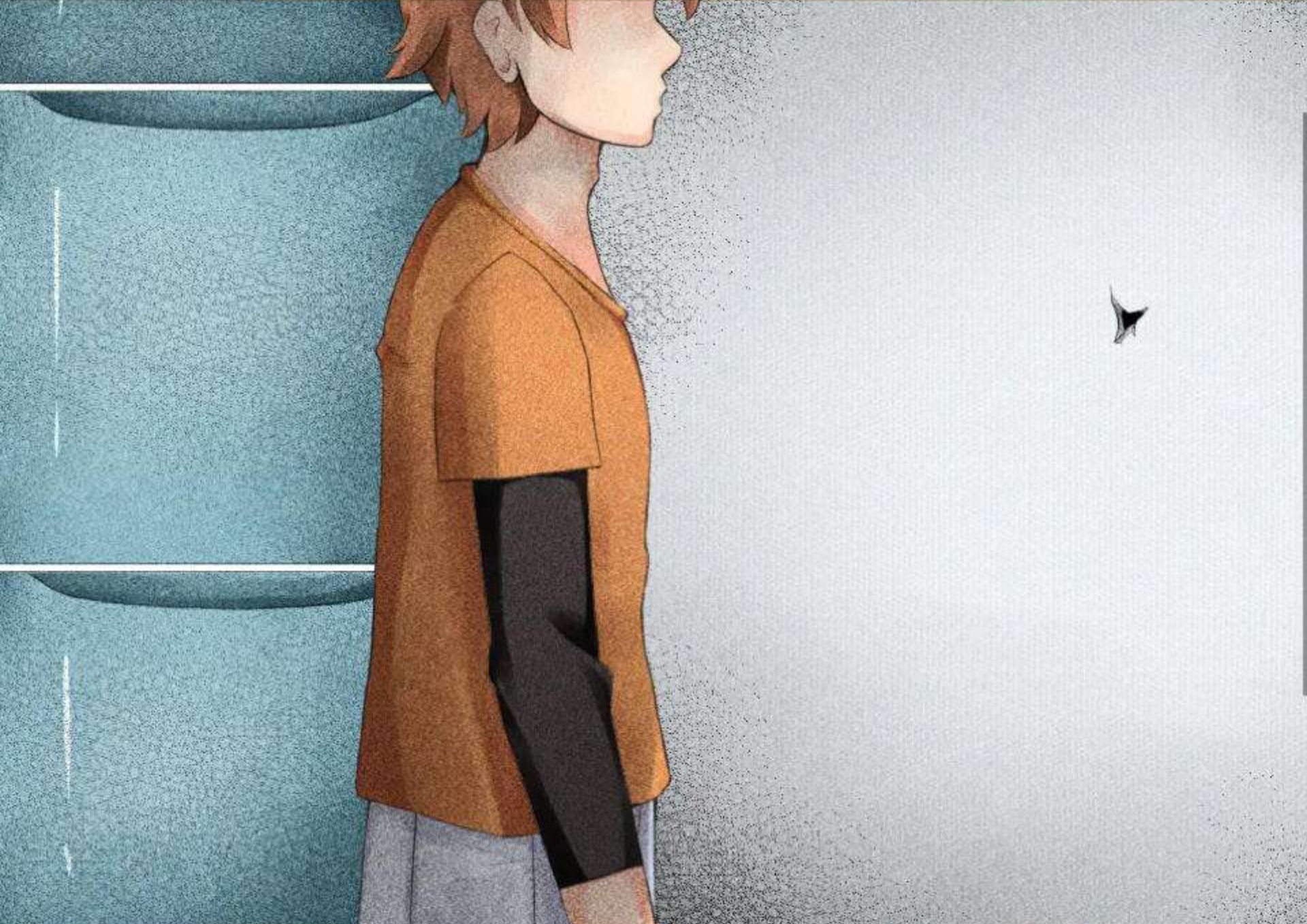
受精せると女の子を惚れさせる能力を持ったオジサンの毒牙にかかった流花ちゃんは強引にエッチされて受精した結果、オジサンに惚れてしまう。

付き合っていた彼氏を呼び出して彼氏の前でイチヤラフエッチを行い彼氏と別れてしまう。流花ちゃんは彼氏と別れた後、オジサンとイチヤラフ同棲生活を送っていた。






流花ちゃんがあいつに
寝取られて
しばらく経った……



あれから俺は
虚無感に包まれた
生活を送っている……



そんな中、
唯一の日課は……



この壁の穴を
覗くのが……

「はあああ♡」

オジサン♡♡オジサン♡♡

気持ち良いですうー!

「はっはっはW」

いつも流花ちゃんは

オジサンにデレデレしだねえ♡」

「当たり前です♡オジサンは

こんなにも素敵で遅しくて♡

それに…♡」

「ち○こがすばい♡W」



ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

は♡
ち♡
♡

は♡
ち♡
♡

「あん♡そうですっ♡おち○ちんが大きくて♡
病みつきになりますっ♡」

「流花ちゃんとの性活もどきの位経ったかな？」

「流花ちゃんこのまのこの形を覚えてたんじゃない？」

「もうとっくにオジサンの

おち○ちんの形は覚えてますよ♡

オジサンのおち○ちんじゃないと

気持ち良くなれないです♡」

「はははW流花ちゃんは本当に

一途で可愛いなあ♡

オジサンキスしちやうよ♡

フキユ♡」

ちゅっ♡

ちゅっ♡

トロ...♡

あん♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

フッ

フッ

フッ

フッ

「あん♡ちゅっ♡ちゅっ♡」



「はええ…♡イツひやいまひたあぁ♡」
「流花ちゃん♡顔もイツちやっってるよ〜W」
「はああ♡すみません♡」
「オジサンの前でこんな顔して…♡」
「恥ずかしいですぅ♡」
「大丈夫だよ♡そんな顔も大好きだよ♡」
「ああん♡だからオジサン大好きい…♡」

は
ええ…♡

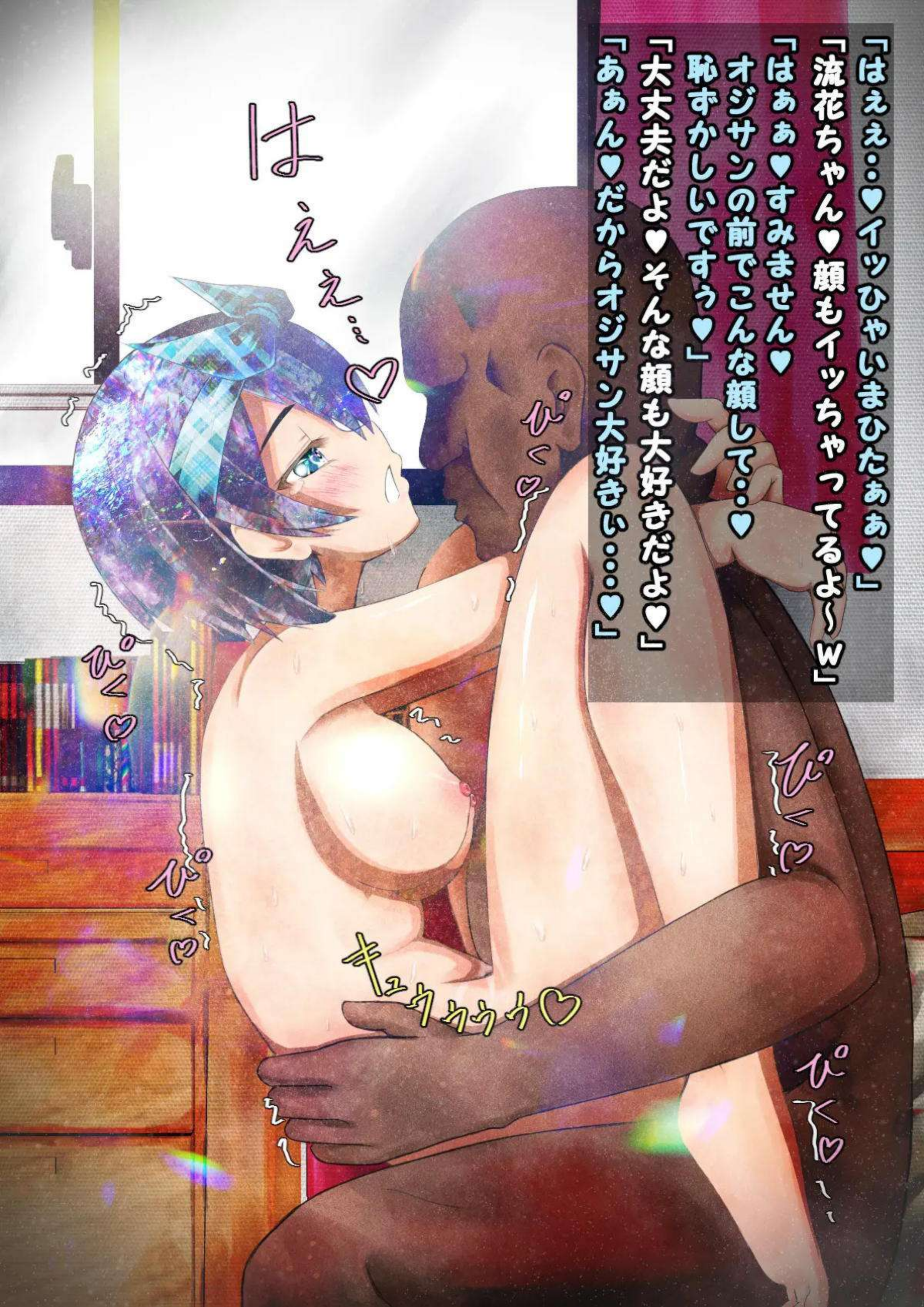
ん♡

ん♡

ん♡

キゅ♡

ん♡



「フチユ♡フチユ♡はあはあ♡

流花ちゃんのイキ顔見たら

オジサンの精子が込み上げて来たよー！

「ちゅちゅー♡うれしい♡

オジサンの精子が入ってくる♡

たくさん出してくださいな♡ちゅー♡」



「ふふふ♡もう中出しのやっばいぞ

流花ちゃんのまのこの中にオジサンの精子が

染み込んで取れないかもね♡」

ぎし♡

ぎし♡

ぎし♡

ぎし♡

ぎし♡

ぎし♡

「オジサンの精子♡もうさっさっ子宮に染み込んでますよう♡
オジサン、絶倫なんだもん♡あっあっ♡」
「毎日ヤリまくし性交だからね♡
もうこのま〇こは完全に
オジサンのものだね♡」
「あんっ♡そうですっ♡
私はオジサンのものですよ♡
あっあっあっ…♡♡」



あ♡
あ♡
あ♡

あ♡

あ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ぱ♡

ぱ♡

ぱ♡

ぱ♡

ぱ♡

ぱ♡

「あっあっあっ♡私もまたイッちゃいちゃうぞ♡
オジサンっ♡オジサンっ♡オジサンっ♡」
「はあはあ！オジサンの子種を出すよー！
流花ちゃん！流花ちゃん！」
「あああっ♡オジサン♡オジサン♡
イクっ♡イクううう〜♡♡♡」

あっ♡
あっ♡
あっ♡
あっ♡

せゅんっ

せゅんっ

ぱんっ♡

ぱん♡

ぱん♡

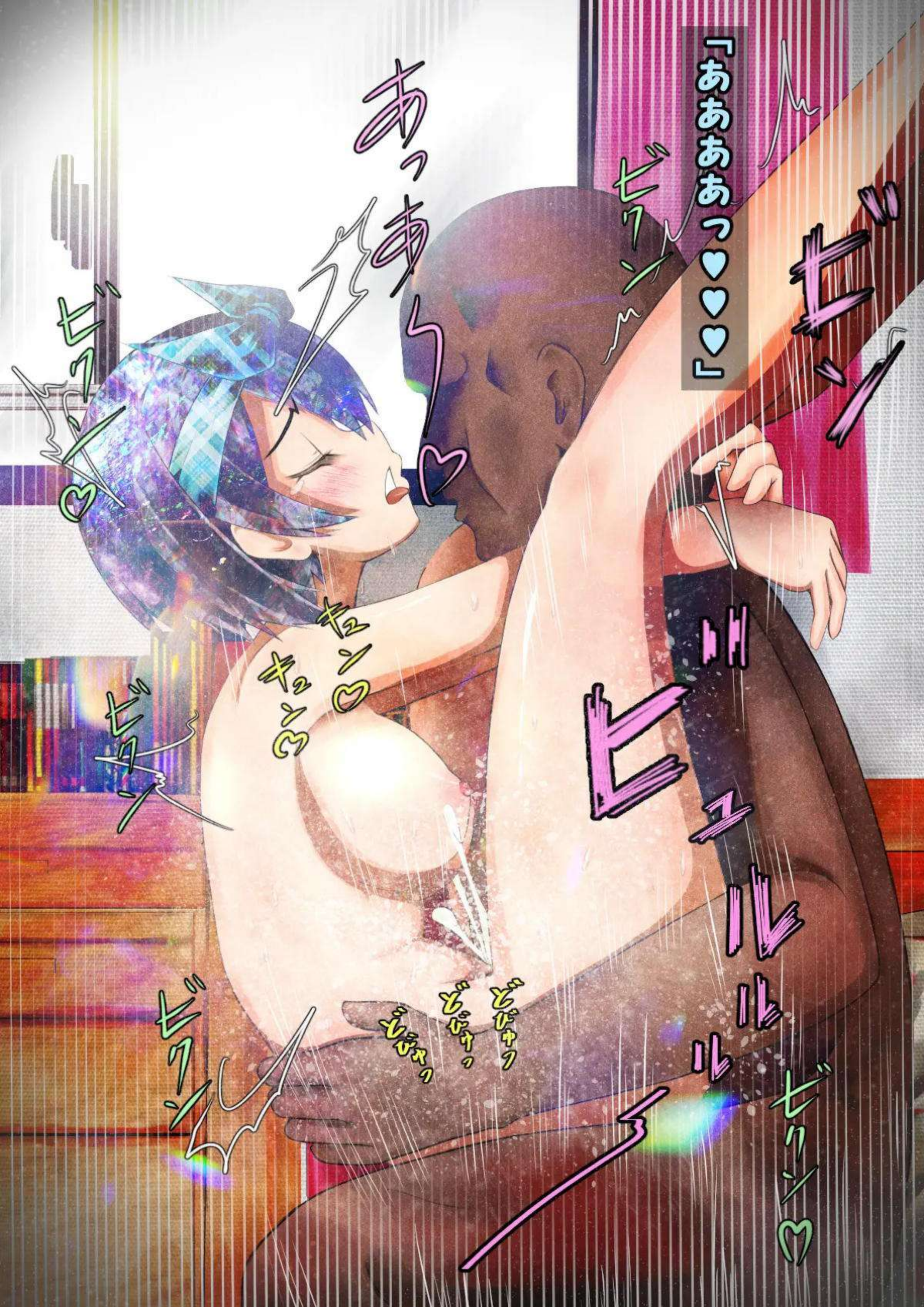
ぱん♡

ぱん♡

せゅんっ

せゅんっ
ぱん♡
ぱん♡
ぱん♡





「ああああ♡♡♡♡」

あっあ

ツツツ

フッ

♡♡♡
ツツツ

フッ

ツツツ

フッ

ツツツ

フッ

ツツツ♡

ツツツ

ツツツ
ツツツ
ツツツ

ツツツ

ツツツ♡

「あへえ♡♡♡オジサンセクス♡
気持ち良すぎますう♡♡♡」
「ぐへへ、そうだろう♡これからも
いっぱい中出しセクスしてあげるからね♡
毎日幸せだね♡流花ちゃん♡♡♡」
「はいい♡私、幸せです♡♡♡」

あ

え

びん

びん

ん
ん
ん
ん
ん

びん

びん

びん

ゴボ

「お」





「オジサンっ♡もう一回お願いします♡ちゅっ♡」

「ぐふ♡仕方ないなあ♡

スケベな流花ちゃんに

もう一回子種を注いであげるよ♡」

「ちゅ♡ちゅ♡うれしいっ♡」

もっともっつと

種付けしてくださいっ♡♡♡♡♡

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

「げへへ、流花ちゃん♥料理してくれるのかいっ？」

「そんな恰好でスケベだねえ♥誘ってる感じが思えないよ♥」

「そんなあ……♥オジサンが裸エプロンで料理しろって」

「言っただんじやないですか〜♥酷いです……」

「いやいや、流花ちゃんの裸エプロンが」

「こんなにも破壊力抜群だったとはW」

「やっぱりスケベな身体をしている」

「流花ちゃんが悪いなW」

「もうWオジサンはじょうぶがならぬぞ♥」



「だってこんなにおっぱいが

自己主張してるんだよ〜

やっぱり我慢できないってw」

「やあっ♡乳首♡クリクリされるぞ…♡

はあああ…♡♡♡」

「流花ちゃんもノツてきたんじゃないの？

ちよつとだけエッチしようよ〜♡」

「だ、だめですっ♡今は料理をしないぞ…♡

後でたくせんエッチしますから…♡♡♡」

はあ…♡

セッ♡
♡

クリ

クリ

クリ♡

クリ♡

「いやー！我慢できないねー！
おっぱいを揉ませてもらうよ♡」
「ああん♡そんなに揉まれたら…
はああ…♡♡」

ああ♡

もみ

もみ♡



「あ〜♡」





「やだ♥ミルクでちゃった…」
「おほお♥流花ちゃん母乳が…
ついに懐妊だねえ♥
いやあ、赤ちゃんが楽しみだあ♥」
「私もオジサンとの赤ちゃん楽しみですう♥
うれしい…♥」

う
ふ
ふ
♥

と
ろ
ん
…
♥

「ぐへへ♡今日は流花ちゃんのミルクを
おかずにしてご飯を食べるのも良いなあ♡」
「ああ♡搾っちゃだめです♡あん♡ああ♡」
「かわいい流花ちゃんのミルクなんだから
搾るのは当然でしょ♡」



びゅっ

びゅっ

あっ♡

びゅっ

びゅっ

あっ♡

びゅっ

びゅっ



「じゃあ、エッチチできるうちに
たくさんエッチチしておかないとね♥
母体の健康を考えると一定の期間は
エッチチできないからねえ♥」
「あ……♥確かに今のうちに
エッチチしておかないと……ですな♥
そ、それじゃあ……オジサンのおち○ちん……
私のおま○りに入れて欲○うです……♥」

びびり
びびり

びびり……

「流花ちゃんもその気になってくれているねえ♡
それじゃ遠慮なく!」
「ああんっ♡」

あ♡
あ♡
♡

ゴッ
ゴッ
ゴッ

すん!



「はああ……♡オジサンのおち○ちん来たあ♡
「やっぱしオジサンのおち○ちん大好きい♡」
「おおお、流花ちゃんのまま○こも良いよお♪
今のうちにたぐわん♡ヒシキしておかならじおねえ♡」
「お、おらら♡ら♡おら♡ヒシキ♡ト♡びだわら♡」

は
あ
あ♡

キ
ン♡

キ
ン♡

キ
ン



「よーしっ、いくよー！」

「流花ちゃんっ流花ちゃんっ♡」

「はええっ♡オジサンのおち〇ちんが

子宮をずんずん突いてきますう♡

お腹の赤ちゃんが驚いちゃいますよ♡」

「まだ大丈夫だよ♡むしろ今のうちに

激しくやっておきたいし♡というか

流花ちゃんも激しいのやっておきたらどごゃっ♡」

はえええ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

「えへへ…♡そっとうですな♡
今のうちに激しらの欲っらどおっ♡」



「ふんっ！それにち○ぽミルクを注げば
栄養になるかもしれないだろ♡
たっぷり精を注いでおかないと♡」
「あっあっあっ♡精子を注いでも
赤ちゃんの栄養にはならないですよ♡」
「まあまあWイメージだよW
愛の証しを注ぐんだから、
きっと元気な子に育つてくれるっ♡」

「ああ♡確かに愛の証しを注いでいるわけですから
悪い影響は無いかも…♡嬉しいですね♡あんっ♡」



「はあはあ♥ラストレスパートだー！

精力剤を注ぎ込むよっー！」

「あんっ♥私も♥私もイキそうですっっ♥

オジサン♥オジサンっ♥あああああっ♥」

「うおおおっー！！！！」

あっあっあっ…♡

ピョ

ばん♡
ばん♡
ばん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ピョ
ピョ

ん

ん！





「あああああ」♡♡♡♡♡

あ

ゼン

あ

あ

ズン

ん

ん

ん

!

「ああ♥オジサンの元気汁が子宮の中に
きつとお腹の赤ちゃんも喜んでます♥」
「ふふふ♥オジサンには流花ちゃんが
喜んでるように見えるけどwこのスケベ娘めw」
「はあん♥オジサンのいじわる〜♥
もう食事を作らないですよ〜♥
満足したらさっさとおどろけて下せろ♥」

あはあ



#2
ノ
♡

#2
ノ
♡

フボ

フボ



「むふふ、流花ちゃん♡ずいぶん
お腹が大きくなつたね♡
もう少ししたら子供の影響を
考慮してエッチは控えた方が
良いねえ♡」

「あう…そうですね
オジサンと
エッチ出来ないのは
寂しいですけど…
もっとエッチ
したいです…♡」

「オジサンもだよ、流花ちゃん♡
じゃあ今日はたくわんエッチしようね♡」
「はい♡お願いします♡オジサン♡」



「あっ♡オジサンのおちのちんが♡
これだけでドキドキしちゃいます♡」

あ



ドキ
ドキ♡

にゅる♡



「べへへ♡本当にスケベだねえ♡
これだけでまのこが洪水になってるよ♡」
「あう♡聖者がころん♡」

「あああ♡
入ってきませぬ♡」

あ
あ
♡

びびりッ!



「あへえ♥やっぱりオジサンのおち○ちん最高です♥
もっこのおち○ちんを味わいたいですう♥」



「流花ちゃんのま○こも腫圧がすごいよ♥
妊婦のお腹も違った気持ち良さがあるねえ♥
今日はいっぱい堪能するぞお♥」
「あはあ♥こっぴら愛つてくたわら♥オジサン♥」

~~~~~



「ふんふん！この淫乱め！  
エッチがしばらくできなくても  
大丈夫なように  
オジサンち○ぽの感触を  
覚え込ませてやるからな♡」

あっ♡  
あっ♡  
あっ♡

「あん♡あん♡オジサン♡気持ち良いっ♡  
私、淫乱かもしれないですっ♡あっあっあっ…  
「はははW淫乱の流花ちゃんも大好きだよ♡」

ずっ♡  
ずっ♡  
ずっ♡  
ぽっ♡  
ぽっ♡  
ぽっ♡

「あっはあ♥気持ち良くて  
母乳が出ちゃいます♥」

あ  
あ

じわあ...

じわ...

「おおっ！流花ちゃん母乳♥

これも赤ちゃんの為に使われるのか〜

オジサンも飲みたいぞ♥」

はっ

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

「ちゅぽ、ちゅぽ♡  
じゅる〜♡」

あん♡

ちゅ

♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

「あつあ〜♡オジサン、  
赤ちゃんみたいですよ♡」  
「むほお♡こんなエロいおっぱいで  
母乳が飲めるなんて、  
生まれてくる赤ちゃんが羨ましすぎるよー!」

「ほほほ♥赤ちゃんが二人になっっちゃうぜ  
流花ちゃんが大変だからね♥」

「いびきをうたうおみ♥」

「うふ♥オジサンの

おっぱい飲む姿かわいらしい♥

ちよっと残念です♥」



「ミルウのおかげで精力全開だ〜！  
ふんっふんっ♡」

「あっ♡あっ♡  
奥までずんずんっ♡  
オジサン、素敵ですっ♡」  
「ははは♡流花ちゃん  
の快感スポットは  
既に熟知しているよ〜♡」



あっ

あっ

あっ

ずん♡

ずん

ずん♡

ずん

「あぁっ♡オジサンのおち○ちん♡  
たっぷり味わいたいです♡」



あぁっ♡  
あぁっ♡  
あぁっ♡

「オジサンのち○ぽ♡  
もっつもっつぐっぐわら♡」  
「ふんっふんっ♡  
流花ちゃんが寂しくなないように  
いっぱいち○ぽを入れてあげよう♡」

ぬい♡  
ぬい♡  
ぬい♡  
ぬい♡  
ぬい♡

「はあぁっ♡来まわっ♡  
私、イキそうっ♡」

「ふふふ♡じゃあオジサンも  
一発目をま〇こに注ぎ込むよ♡」  
「はいい♡お願いします♡  
オジサンっ♡あぁあぁあぁっ♡」

は

あ  
あ

ゾ  
ゾ  
ゾ

♡

は

ん  
♡

は

ん  
♡

は

ん  
♡

は

ん  
♡



「イタタタタタ」

あ  
あ  
あ  
あ  
あ  
あ

とびや  
とびや

とびや  
とびや

とびや  
とびや





「はあ……♥気持ち良い……♥  
オジサンとエッチ、最高です♥」



「まだまだこんなもんじゃ終わらないよ  
今日は最低十回は中出しするからね♥」  
「あは♥楽しみです♥  
もっともっと精液くださいわら♥」



「ぐふふふ♥この調子で  
子供をいっぱいつくろうね〜♥  
二人の愛の結晶だよ♥」

あへえ♥

「はいっ♥オジサンの子供  
いっぱいつくりたいですっ♥  
もっと私を愛してくださいね♥」

「ぐへへ♥当然だよ♥  
流花ちゃんを孕ませまくるからね〜♥ぶちゅ〜♥」



彼女は俺のことなんか忘れて  
あのオヤジと幸せな生活を送っている

でも今はそれで良いと思っている



なぜなら幸せそうな君をみているだけで  
俺は幸せだから

この壁の向こうから  
君をずっと見続けるよ

終

